

血液製剤関係研究事業一覧

医薬安全総合研究事業（平成15年度からは医薬品等医療技術リスク評価研究事業）

(単位：千円)

研究課題名	研究期間 (年度)	主任研究者	所属施設	職名	H13交付 決定額	H14交付 決定額	H15交付 決定額	課題合計
輸血用血液製剤の安定的な供給及び 血漿分画製剤の国内自給に向けた原料血漿 確保量に関する研究	H13	高野 正義	財団法人 血液製剤調査機構	専務理事	7,000	-	-	7,000
安全な血液を確保するための ウイルス標準品の確立とその応用	H13~15	岡田 義昭	国立感染症研究所 血液・安全性研究部	室長	10,000	9,000	8,100	27,100
安全な血液製剤を確保するための技術の標準化 及び血液製剤の精度管理法の開発に関する研究	H13~15	吉澤 浩司	広島大学 大学院医歯薬学総合研究科	教授	19,000	17,100	15,390	51,490
血液白血球除去技術の臨床評価：前方視的検討	H13~15	半田 誠	慶応義塾大学 医学部輸血センター	室長	7,000	6,300	5,670	18,970
献血者及び血液の安全性向上のための 問診のあり方に関する研究	H14~16	高野 正義	財団法人 血液製剤調査機構	専務理事	-	7,000	6,300	13,300
血小板製剤の有効期限延長と安全性確保に 関する研究	H14~16	大戸 齊	福島県立医科大学 医学部	教授	-	7,000	6,300	13,300
献血により生じる健康被害の発生防止に 関する研究	H15~17	河原 和夫	東京医科歯科大学大学院 医療管理学分野	教授	-	-	10,000	10,000
医療機関における血液製剤の適正使用の推進に 関する研究	H15~17	清水 勝	杏林大学医学部 臨床検査医学	客員教授	-	-	7,000	7,000
年度合計					43,000	46,400	58,760	148,160

牛海绵状脳症研究分野（平成14年度は肝炎等克服緊急対策研究事業、平成15年度は食品安全確保研究事業）

(単位：千円)

研究課題名	研究期間 (年度)	主任研究者	所属施設	職名	H14交付 決定額	H15交付 決定額
血液中でのプリオンタンパクの存在様式の解析 と血液製剤からのプリオン除去の研究	H14~16	岡田 義昭	国立感染症研究所 血液・安全性研究部	室長	12,625	12,625
年度合計					12,625	12,625

厚生労働科学特別研究事業

(単位：千円)

研究課題名	研究期間 (年度)	主任研究者	所属施設	職名	H13交付 決定額	H14交付 決定額	H15交付 決定額
採血基準の改定と血液製剤の適正使用に関する 研究	H13	清水 勝	杏林大学医学部 臨床病理学	客員教授	8,000	-	-
非加熱血液凝固因子製剤を使用した血友病以外 の患者における肝炎ウイルス感染に関する調査 研究	H13	島田 馨	東京専売病院	院長	177,324	-	-
輸血用血液におけるウエストナイルウイルス検 出方法の確立に関する研究	H14	倉根 一郎	国立感染症研究所 ウイルス第一部	部長	-	9,000	-
少子高齢化における献血による安全な血液の国 内自給自足対策のあり方に関する研究	H14	清水 勝	杏林大学医学部 臨床病理学	教授	-	18,000	-
我が国における血液製剤の平均的使用量に関する 研究	H15	高野 正義	財団法人 血液製剤調査機構	専務理事	-	-	8,000
年度合計					185,324	27,000	8,000

人工血液開発分野(平成12・13年度は高度先端医療研究事業、平成14・15年度は医薬安全総合研究事業)

(単位:千円)

研究課題名	研究期間 (年度)	主任研究者	所属施設	職名	H12交付 決定額	H13交付 決定額	H14交付 決定額	H15交付 決定額	課題合計
臨床応用に向けた抗HCVヒト型抗体の開発に関する研究	H12~13	松浦 善治	大阪大学微生物病研究所 ニマージング感染症研究センター	教授	104,582	15,000	-	-	119,582
人工血小板開発研究	H12~14	池田 康夫	慶應義塾大学 医学部内科	教授	90,000	90,000	90,000	-	270,000
臨床応用可能な人工赤血球の創製に関する研究	H12~14	土田 英俊	早稲田大学 理工学総合研究センター	教授	55,000	70,000	70,000	-	195,000
臨床応用を目的とした生体機能代替可能な人工赤血球の開発に関する研究	H12~14	北島 額	北海道大学大学院 医学研究科	教授	15,000	20,000	20,000	-	55,000
各種疾患の治療に役立つヒト抗体の単離調製	H12~14	黒澤 良和	藤田保健衛生大学総合 医科学研究所	教授	60,000	60,000	60,000	-	180,000
人工ポリクローナルFvグロブリン製剤の開発に関する研究	H12~14	鈴木 和男	国立感染症研究所 生物活性物質部第三室	室長	28,000	10,000	8,000	-	46,000
新規機能を付与した人工プロトロン製剤の開発に関する研究	H12~14	森田 隆司	明治薬科大学 生体分子学教室	教授	18,000	18,000	10,000	-	46,000
病原微生物の増殖を阻害する人工ヒト免疫グロブリンの開発	H13~15	井原 征治	東海大学医学部 基礎医学系	助教授	-	20,000	20,000	18,000	58,000
感染症発症抑制に関わるヒトB細胞由来抗体の作製	H13~15	垣生 園子	東海大学 医学部	教授	-	20,000	20,000	18,000	58,000
造血幹細胞からの成熟赤血球、血小板誘導システム構築に関する研究	H13~15	平家 俊男	京都大学医学研究科	助教授	-	11,000	10,000	9,000	30,000
胚性幹細胞および造血幹細胞を利用した血液生成技術の開発研究	H13~15	平井久夫(※)	東京大学医学部附属病院 無菌治療部	助教授	-	25,000	28,125	25,313	78,438
体外増殖帯赤血球細胞を利用した成分輸血製剤生産の検討	H13~15	加藤 俊一	東海大学医学部基礎診 療学系再生医療科学	教授	-	11,000	20,000	18,000	49,000
ヘモグロビンアロステリーを利用した付加価値赤血球製剤の創製と救急医療への応用	H15~17	末松 誠	慶應義塾大学医学部	教授	-	-	-	22,000	22,000
認識部位担持リボソーム・アルブミン重合体の安全性と止血効果の評価	H15~17	池田 康夫	慶應義塾大学医学部内科	内科学 教授	-	-	-	91,186	91,186
救急治療薬としてのヒト抗体調製に関する研究	H15~17	黒澤 良和	藤田保健衛生大学総合 医科学研究所	教授	-	-	-	36,000	36,000
救急・災害医療に利用可能な人工赤血球の開発に関する研究	H15~17	四津 良平	慶應義塾大学医学部外科	教授	-	-	-	25,000	25,000
血管炎治療のための人工ポリクローナルグロブリン製剤の開発と安全性向上に関する研究	H15~17	鈴木 和男	国立感染症研究所 生物活性物質部第三室	室長	-	-	-	40,000	40,000
人工赤血球の安全性向上に関する研究	H15~17	小林 純一	慶應義塾大学医学部外科	教授	-	-	-	70,060	70,060
年度合計					370,582	370,000	356,125	372,559	1,469,266

※主任研究者が平成15年度より千葉滋氏(東京大学医学部附属病院講師)に変更

人工血液開発研究推進事業（平成13年度）

事業名	研究課題名	主任研究者 (若手研究者)	所属施設（受入研究者）	職名	交付額内訳 (千円)
外国人研究者招へい事業	細胞型及び非細胞型酸素輸液の安全性比較と臨床試験プロトコルの決定	土田 英俊	早稲田大学 理工学総合研究センター	教授	2,873
	非侵襲的微小循環動態観測法の開発と人工赤血球の機能評価	土田 英俊	早稲田大学 理工学総合研究センター	教授	
	人工免疫グロブリン投与による炎症細胞への作用：スクリーニング法の開発と細胞内情報伝達	鈴木 和男	国立感染症研究所	室長	
外国人への派遣事業 日本人研究者への派遣事業	静注後の人工赤血球（酸素輸液）の体内循環動態と代謝過程の解析	酒井 宏水	早稲田大学 理工学総合研究センター	講師	13,076
	非侵襲法による酸素輸液の体内動態評価	宗 慶太郎	早稲田大学 理工学総合研究センター	助手	
	人工ガンマグロブリン製剤のリスク因子としての感染が誘発する食細胞活性化の解明	倉 文明	国立感染症研究所	主任研究官	
若手研究者育成活用事業（リサーチ・レジデント）	アルブミン分子の抗酸化能の機序解明と組換え技術による高性能抗酸化型アルブミンの設計	丸山 徹	小田切 優樹 熊本大学医学部教授		45,089
	臨床応用可能な人工赤血球の創製	小松 晃之	土田 英俊 早稲田大学理工学 総合研究センター教授		
	臨床応用可能な人工赤血球の創製	小柳津研一	土田 英俊 早稲田大学理工学 総合研究センター教授		
	臨床応用を目的とした生体機能代替可能な人工赤血球の開発に関する研究	菅原 武	北畠 顕 北海道大学大学院教授		
	臨床応用可能な人工赤血球の創製	黄 宇彬	土田 英俊 早稲田大学理工学 総合研究センター教授		
	臨床応用に向けた抗HCVヒト型抗体の開発に関する研究	谷 英樹	松浦 善治 大阪大学微生物病研究所 教授		
	人工ポリクローナルFvグロブリン製剤の開発に関する研究	斉藤 武	鈴木 和男 国立感染症研究所室長		
	新規機能を付与した人工プロトロンビン製剤の開発に関する研究	奥田 大樹	森田 隆司 明治薬科大学教授		
臨床応用に向けた抗HCVヒト型抗体の開発に関する研究	林 昌宏	松浦 善治 大阪大学微生物病研究所 教授			
年 度 合 計					61,038

エイズ対策

エイズ対策	原因の究明・発生の予防及びまん延の防止	<ol style="list-style-type: none"> 1 エイズ発生動向調査経費 2 血液凝固異常者実態調査事業 3 HIV感染者等保健福祉相談事業 4 エイズ患者等に対する社会的支援事業 5 個別施策層対応手引書作成費 6 ボランティア指導者育成事業 7 相談員養成研修事業 8 相談体制維持強化費 	<ol style="list-style-type: none"> 9 保健所における血液検査の迅速化（検査機器等の整備） 10 保健所の個室相談室の整備 11 検査体制維持強化費 12 検疫所でのHIV検査実施 13 国立保健医療科学院の研修 14 保健所等におけるHIV検査、相談事業
	医療の提供	<ol style="list-style-type: none"> 1 エイズ治療のための個室病室等の整備 2 エイズ治療拠点病院に対する医療機器等の整備 3 エイズ治療拠点病院診療支援事業 4 エイズ治療情報網整備費 5 エイズ治療拠点病院医療従事者海外実地研修 6 エイズ治療拠点病院地域別院長会議の開催 7 地方ブロックの拠点病院整備促進事業 	<ol style="list-style-type: none"> 8 エイズ治療・研究開発センターの整備 9 国立病院・療養所におけるエイズ診療体制の整備 10 医師、看護師、検査技師研修 11 HIV診療医師情報網支援事業 12 歯科医療関係者感染症予防講習 13 医療提供体制確保経費 14 血友病患者等治療研究
	研究開発の推進	<ol style="list-style-type: none"> 1 エイズ対策の研究 2 創薬等ヒューマンサイエンス総合研究 3 エイズ発症予防に資するための血液製剤によるHIV感染者の調査研究事業 4 エイズ・結核合併症治療研究事業 	<ol style="list-style-type: none"> 5 外国人研究者招聘等研究推進事業 6 基礎研究推進出資事業 7 エイズ研究センター経費 8 共同利用型高額研究機器整備
	国際的な連携	<ol style="list-style-type: none"> 1 アジア地域エイズ専門家研修事業 2 日米医学協力研究事業 3 国連合同エイズ計画への拠出 4 エイズ国際協力計画の検討 5 開発途上国エイズ・人口対策人材養成事業 	<ol style="list-style-type: none"> 6 エイズ国際会議研究者等派遣事業 7 エイズ国際会議開催支援事業
	人権の尊重・普及啓発及び教育・関係機関との新たな連携	<ol style="list-style-type: none"> 1 エイズ知識啓発普及事業 2 「世界エイズデー」啓発普及事業 3 啓発普及（パンフレットの配付等） 4 エイズ予防ポスター作成 5 空港でのビデオ等による啓発 6 エイズ対策評価検討経費 7 エイズ予防情報センター事業 	<ol style="list-style-type: none"> 8 血液製剤安全性情報システム事業
	都道府県等によるエイズ対策促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・エイズ対策推進のためのマンパワーの養成事業 ・啓発普及活動事業 ・エイズ治療拠点病院治療促進事業 ・エイズ治療拠点病院医療従事者実地研修事業 ・エイズ治療拠点病院カウンセラー設置事業 ・地域組織等活動促進事業 等 	

（「平成15年版厚生労働省白書」p.384より）

C型肝炎等緊急総合対策

平成16年度予算 64億円（15年度予算60億円）

基本的な考え方

- ① 肝炎による健康障害を回避することが可能であること及び感染者に対する偏見や差別を防ぐという観点から正しい知識の普及が必要
- ② C型肝炎ウイルス等感染者の数は極めて多く、感染率等の要素を勘案して、ある程度対象集団を絞り込んだ、重点的、迅速的な対応が必要

（肝炎対策に関する有識者会議報告書）

1. 国民に対する普及啓発・相談指導の充実

- ① 国民に対する普及啓発
 - ・ C型肝炎等に関する問答集の作成等
 - ・ 就職差別を未然に防ぐための公正な採用選考にかかる啓発・指導
- ② 地域や職場等における相談機会の確保
 - ・ 肝炎に関する保健指導従事者研修の実施
 - ・ 職域における講習会の実施
- ③ 相談事業の実施

2. 現行の健康診査体制を活用した肝炎ウイルス検査等の実施

- ① 老人保健事業における肝炎ウイルス検査等の実施
- ② 政府管掌健康保険等の生活習慣病予防健診における肝炎ウイルス検査の実施
- ③ 保健所等における肝炎ウイルス検査の実施
- ④ 健康保険組合、職域における健康診断の勧奨

3. 治療方法等の研究開発及び診療体制の整備

- ① 肝臓病の新たな治療方法、新薬等の研究開発
- ② 有効性が明らかに優れた新薬等の実用化の推進
 - ・ リバビリンとインターフェロンの併用療法に医療保険を適用（平成13年12月）
 - ・ インターフェロンの保険適用上の投与期間制限の撤廃（平成14年2月）
 - ・ ペグインターフェロンの保険適用（平成15年12月）
 - ・ 生体部分肝移植の成人への保険適用の拡大（平成16年1月）
 - ・ 肝悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法に医療保険を適用（平成16年4月）
- ③ 治療指針の普及促進や治療体制の整備
 - ・ 臨床研究班による肝炎治療の標準化とその普及による肝炎治療体制の整備
 - ・ 国立病院長崎医療センターを中心に診断・治療法の開発・研究を実施（平成16年4月から独立行政法人化）
 - ・ 地域がん診療拠点病院の整備

4. 予防、感染経路の遮断

- ① 院内感染対策のための医療従事者講習会、相談窓口事業の実施
- ② 輸血における新しい検査法の標準化、院内輸血指針の策定

